

## 事業の概要 (特)ときがわ山里文化研究所

### 1 事業の内容

都市市民の参加と交流によって、高齢化と過疎化が進む山間地域の環境保全や伝承文化の再生を図り地域の活性化を進めるとともに、参加市民が豊かな山里文化を学び体験することにより、元気回復と山里の温かい心を都市に呼び戻すことを目指して多彩な取り組みを展開した。この間15事業、事業参加者数は延べ1千人を超えて、新規会員数約100人等事業の定着化と組織体制が充実した。

主な事業は

- (1) 耕作されなくなった遊休農地(3箇所)を再生して無農薬、有機の野菜やソバ等の雑穀類、山菜の栽培さらに無農薬茶を栽培し製茶して会員に頒布した。
- (2) 荒れた竹林を整備し、間伐した竹を利用して伝統の土窯で、「竹炭・竹酢液」をつくり会員等に配布した。この間2回の窯焼き・窯出し、2回の準備作業を行い、多量の竹炭・竹酢液をつくり会員等に頒布した。
- (3) 山間地域の伝統食「そば打ち講習会」「コンニャクづくり講習会」を開催した。  
なお、ソバ打ちの材料は管理地で収穫したそばを使用したものである。  
また、「山菜を食べる」、「源流探索」「餅つき大会」等四季折々の事業も実施して多くの参加者に山里の魅力を味わってもらった。
- (4) 地域住民と参加市民の交流会等を行った。秋の収穫祭「いも煮会」「ログハウスパーティ」は、町長等地域住民、関係者が多数参加して盛り上がった。
- (5) 山間地域に伝わる祭りや伝承行事は貴重な文化財である。消滅の危機にある年中行事や通過儀礼等について、古老3人から聞き取り調査を実施した。報告記録書の作成は次年度以降の課題である。特に地域の伝統の祭り「大野の送神祭」に「祭り旗」20本を奉納し(全体の3割)祭りの復興に貢献して地域の信頼を高めた。
- (6) 上記事業のほかに、桧・杉林の間伐、間伐材を使った「ログハウス」の建設や桧・杉材を使ったものづくりは人気の事業となった。

### 2 今後の発展に向けて

- (1) 既存事業の定着化と新たに学童保育や団塊世代対応事業等のニーズに応えた事業を拡充する。
- (2) 地域との交流を推進するため、さらに幅広い分野の地域指導者の発掘、地元還元の実業連携を進めて親善交流をさらに深める。
- (3) 山里の特産品の開発や販売、地域資材の活用、民泊促進等を進め地域経済の活性化と本会の財政基盤の充実を図りたい。
- (5) 伝承文化の保依存継承のために、引き続き聞き取り調査や研究機能の充実を図り、報告書作成を目指す。

